

第1回小中学校のあり方を考えるワークショップを開催しました

12月16日(土)に、中央公民館多目的ホールで第1回小中学校のあり方を考えるワークショップを開催しました。

今回から新たに6人がワークショップに参加していただき、全員で23名になりました。

参加者は、ファシリテーターから改めてワークショップについて説明を聞き、理解を深めました。

また、事務局から町の教育大綱や町内の小・中学校の現状について説明し、質疑応答を行いました。

質疑応答では、

○松崎高校の存続について

○松崎町との協議について

○教育大綱の内容について

○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーについて

○ALT・CIRについて

○人口と教育の専門家に話を聞きたい

といった質問・意見がありました。

その後、ワークショップで「対話」が必要だと思うテーマ(論点)を話し合いました。今回から高校生も参加しており、高校生からは「(中学・高校進学を通して)いろいろな方と関わりと考え方の視野が広がる。」「春から大学に進学をするが、いずれは西伊豆町に戻ってきたい。そう思えるのは18年間住んだこの町が住みやすいし、人と人の交流の温かさがあると思ったから。子育て支援もあり、母が助かったと言っていた。」「不登校が多くいることに驚いた。統合もあり複雑な人間関係があるのでは。小学校の段階から、交流を増やすなどすれば人間関係のいざこざが少なくなるのでは。」など活発な意見が交わされました。

「対話」が必要だと思われるテーマとして、出された意見は次のとおりです。

A	松崎町(小学校～高校)との協議
B	西伊豆町小学校・中学校施設 教職員人的環境
C	人口減少と教育 少人数での教育の長所・短所

●高校以降まで見据えた議論

●財政的な基盤を踏まえた議論(ソフト・ハード)